

平成30年度 学校自己評価及び関係者評価

評価の基準 4：十分達成された 3：概ね達成された 2：やや不足な点がある 1：ほとんど達成されていない

評価項目	評価指標	学校自己評価コメント	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
1 高等 いを障 教路が 育ま い えの た 状態 専門 や 性 特 の 性	1-① 児童生徒や保護者のニーズに応じた個別の指導計画を作成し、指導に活用している。	・ 個別の指導計画の様式や実態把握のツールについては、校内研究を通して形ができつつあり、活用し、検証する段階である。 ・ 校内LAN上に共有フォルダをつくり、学校全体で教材の活用ができた。 ・ 校内研究と関連づけて、卒業後の自立に向けた指導内容を個別に設定し、取り組み、少しずつ成果が上がっている。	3.2	3.3	・ みや央祭の発表する場面を見た際、重度の障がいのある子供たちに対して、工夫や配慮がされていると感じた。 ・ 児童生徒から心のこもったあいさつが聞かれる。 ・ 個別の教育支援計画について、客観的な評価があるのか。 ・ 学校自己評価について前年度との比較が見られるとよい。 ・ 小中高で保護者アンケートの回収率に差がある。中高の低さに注目する必要がある。 ・ 保護者アンケートの集計結果の詳細について知りたい。 ・ 保護者アンケートは各学年毎に取ることで、結果が違ってくるのではないかとアンケートの内容をもっと詳しくしてもよいのではないかと。
	1-② 根拠に基づく指導が行われるよう、実態把握や指導計画の作成、評価を行っている。	・ 児童生徒の実態把握に関しては、職員間で共通理解を図り、根拠に基づく指導・支援を行っていく必要がある。 ・ 学部学年の行事等、前例にとらわれず、意義や必要性を十分検討する必要がある。 ・ 保護者からは個別の指導計画を活かした指導やわかりやすい授業を行っているという評価を得ている。	3.1	3.0	
	1-③ 学習効果を高めるために教材教員の工夫や改善を行っている。	・ 2か年計画で新学習指導要領実施に向けた教育課程や指導計画の見直しに取り組んでいる。 ・ 保護者と密に連絡を取りながら、指導を行うことができた。 ・ 幅広い分野の研修を実施し、専門性の向上につながった。 ・ 職員の研究の方向性に関する共通理解や意識の高まりに課題がある。 ・ 新学習指導要領について、しっかり研修し、実践に結びつけていく必要がある。	3.2	3.4	
2 軟た 性計 様の 画々 的な 的なる 、課 教組 織に 的 的 対 で 応 柔 し	2-① 学校、家庭、寄宿舎が連携して効果的な指導を行っている。	・ 2か年計画で新学習指導要領実施に向けた教育課程や指導計画の見直しに取り組んでいる。 ・ 保護者と密に連絡を取りながら、指導を行うことができた。 ・ 幅広い分野の研修を実施し、専門性の向上につながった。 ・ 職員の研究の方向性に関する共通理解や意識の高まりに課題がある。 ・ 新学習指導要領について、しっかり研修し、実践に結びつけていく必要がある。	3.2	3.3	・ 職員研修については、どのような研修を受けて、どのようなことを学んで、子供たちにどのような取組をしたのか、具体的な例を聞きたい。 ・ 寄宿舎については、丁寧に見てくれている印象があり、学校との連携ができていいる。共通理解、家庭への報告があり、安心して預けられる。
	2-② 課題研究の内容は適切で、今後の指導に役立てるための研究になっている。	・ 研修等で様々な事業所等を知り、子供たちの将来像を描くことができた。 ・ 進路支援に関して、必要に応じて支援会議やケース会議を行うことができたことは非常に効果的であった。 ・ 個々の生徒の進路希望を把握し、実習等に活かし、進路決定につなぐことができた。	2.9	3.0	
	2-③ 職員研修の内容は適切で、専門性や資質の向上を図っている。	・ 小中高一貫したキャリア教育については、学部間で意識に差がある。 ・ 児童生徒のニーズに応じた進路指導、進路相談、保護者との連携等で保護者の評価がやや低く、保護者の進路に対する意識を早い段階から高めたい必要がある。	3.0	3.0	
3 リ ア 小 教 中 高 一 貫 した キ ャ リ ア	3-① 児童生徒の自立と社会参加を目指し、小中高一貫したキャリア教育の推進している。	・ 研修等で様々な事業所等を知り、子供たちの将来像を描くことができた。 ・ 進路支援に関して、必要に応じて支援会議やケース会議を行うことができたことは非常に効果的であった。 ・ 個々の生徒の進路希望を把握し、実習等に活かし、進路決定につなぐことができた。	2.8	3.0	・ 進路指導の担当者が生徒の人数に対して少ないのではないかと。在校生にも卒業生にも対応するとなると大変さを感じる。 ・ 相談が担当者一人に集中してしまっている。進学、就労、福祉施設等、担当者の専門性を生かす工夫はできないか。各学年に配置するなどの工夫も必要ではないか。 ・ 高等部から入学してくるケースも多く、先生と相談できる関係が作りにくい。卒業後も相談できる体制づくりが必要ではないか。
	3-② 個々のニーズに応じた進路指導や進路相談等を行っている。	・ 小中高一貫したキャリア教育については、学部間で意識に差がある。 ・ 児童生徒のニーズに応じた進路指導、進路相談、保護者との連携等で保護者の評価がやや低く、保護者の進路に対する意識を早い段階から高めたい必要がある。	3.2	3.4	
	3-③ 保護者や関係機関と連携した進路支援の充実を図っている。		3.1	3.1	

4 保護者や学校地域づくりに関する情報発信及び信頼関係の確保	4-① 地域の資源や人材を生かした学習活動に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流学習や学校間交流では、楽しく活動ができたとともに、相互の理解を深める良い機会となった。 ・ 県議会議員を招いての議員講座は、生徒の主権者意識を高め、有意義であった。 	2.6	3.1	・ 居住地校交流は減っているのか。保護者の思いもあると思うが、意義等を押さえて取り組んでみてはどうか。
	4-② 保護者や地域に学校の取組や必要な情報を伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心のバリアフリー推進事業では、全学部とも小中学校、高校と障害者スポーツを通じた交流及び共同学習に取り組むことができた。 ・ 高等部の作業学習等で地域資源の活用を図りたい。 ・ 地域の方との交流の時間の確保等について検討していく必要がある。 	2.9	3.0	
	4-③ 近隣の小中学校等との学校間交流や居住地校交流を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や関係機関への情報提供で保護者の評価が低く、学校の取組や必要な情報の発信を積極的に行っていく必要がある。 	3.0	3.1	
5 地域教育機能の強化 特別支援	5-① 地域の小・中学校等に特別支援教育に関する相談や情報提供を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校のコーディネーターが地域の小中学校へ出向き、ニーズに応じた情報提供や相談を行い、地域に貢献することができた。 ・ 関係機関との情報交換や必要に応じた支援会議、ケース会議等を行い、共通理解を図ることができた。 	3.0	3.1	・ リレーショナルオープンスクールは今後も継続して行ってほしい。 ・ センターの機能を考えると、職員の配置、増員が求められてくるのではないかと。
	5-② 福祉や医療機関等、関係機関との連携を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リレーショナルオープンスクールを実施し、地域の特別支援教育力の向上につながった。 ・ 地域の小中学校等からの相談等の要請が増えており、要請する学校に偏りがある。 	3.1	3.0	
6 教育安全 環境・安心 整備	6-① 施設や設備は安全に管理・維持されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の引き渡し訓練を初めて実施し、小学部77%、中学部40%、高等部49%の家庭が参加した。 ・ 安全点検の実施や日々の修繕などを通して、安全管理に努めている。 	3.1	3.3	・ 引き渡し訓練、備蓄等については、今後も継続して取り組んでほしい。
	6-② 災害や不審者対応等、緊急時の対応が整備されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時用の薬の預かりや個人用の避難袋の準備など、万全な体制づくりに取り組んでいく必要がある。 ・ 保護者からは寄宿舎の老朽化が気になるとの意見があった。 	3.0	3.0	